

上田原東遺跡の発掘調査成果

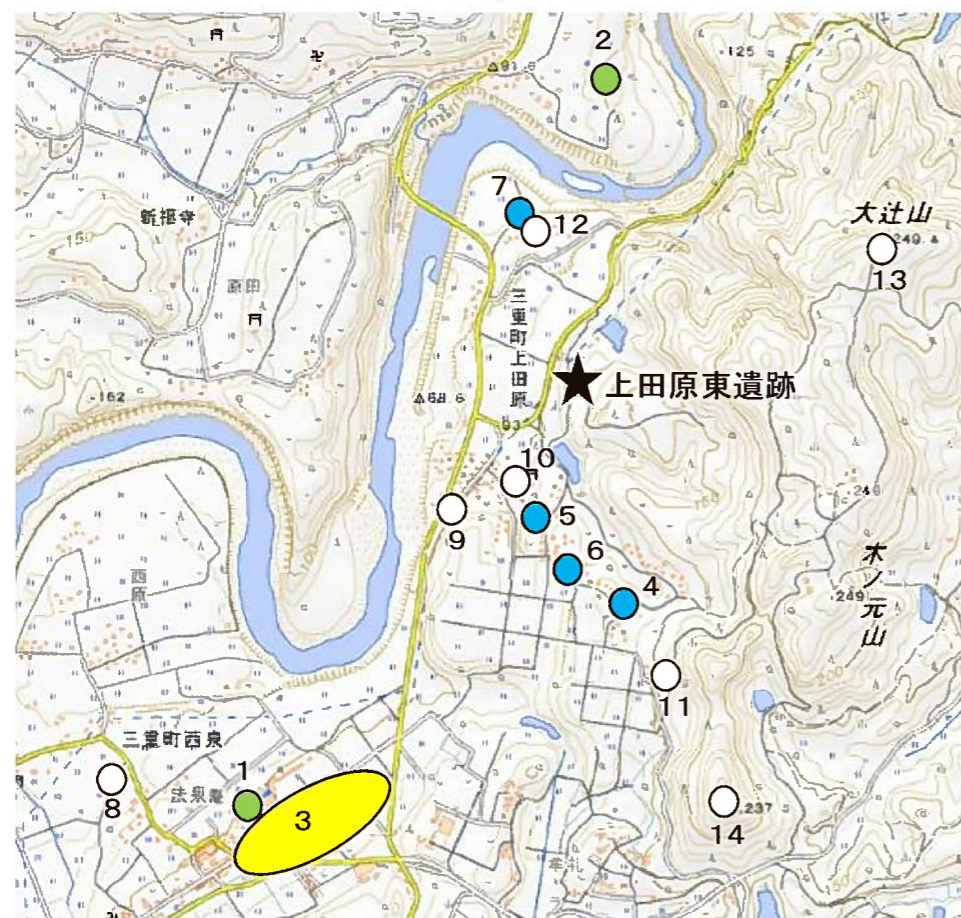
発掘調査の経緯

上田原東遺跡の発掘調査は、大分県土木建築部豊後大野土木事務所が実施する県道三重新殿線道路改良事業に伴い、事業地に存在する埋蔵文化財の保護を目的として、令和2年5月～令和3年1月に実施しました。

上田原東遺跡について

上田原東遺跡は、豊後大野市三重町の北部、アジサイの名所として知られる大辻山の西側の台地状の丘陵平坦地に位置します。大分県教育委員会発行の『大分県遺跡地図』では、旧石器時代他の包蔵地とされています。

上田原東遺跡の周辺には、旧石器時代の遺跡として百枝小学校遺跡や原田第1遺跡、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての大規模集落である陣箱遺跡、4世紀末の前方後円墳である立野古墳(県指定史跡)、鉢ノ窪石棺群、5世紀と推定される下津留古墳群(市指定史跡)、5世紀後半と推定される上田原石棺1号(市指定有形文化財)等の遺跡が存在します。また、中世の石造物である法泉庵宝篋印塔(県指定有形文化財)、馬場石幢(県指定有形文化財)、黒木石幢(市指定有形文化財)、円福寺石幢(市指定有形文化財)、下津留墓碑群(市指定史跡)、中世末～近世の塚や石塔群が集中する大辻山(市指定史跡)、明治10年の西南戦争の際に戦場となった木ノ元山の陣といった文化財もあります。



- 1 百枝小学校遺跡
- 2 原田第1遺跡
- 3 陣箱遺跡
- 4 立野古墳
- 5 鉢ノ窪石棺群
- 6 上田原石棺1号
- 7 下津留古墳群
- 8 法泉庵宝篋印塔
- 9 馬場石幢
- 10 黒木石幢
- 11 円福寺石幢
- 12 下津留墓碑群
- 13 大辻山
- 14 木ノ元山の陣

発掘調査の成果

・旧石器時代

後期旧石器時代の剥片(石器を作るために素材の母岩を打ち割って取った石片)が数点出土しています。石材はいずれも大野川流域で産出する流紋岩で、遺跡の近辺で石器を製作していた可能性があります。

・縄文時代

縄文時代後期後半(約 3500 年前)～晩期末(約 2800 年前)の竪穴建物跡約20棟や貯蔵穴?が見つかっています。建物の多くは晩期末のもので、この時期の土器や石器が多数出土しています。石器では扁平な礫の周縁を打ち欠いた打製石斧が目立ちます。この石斧は九州では縄文時代後期後半から急激に増加するもので、大豆等のマメ類や雑穀の栽培に使用された石クワであると考えられています。狩猟用の矢じりは極めて少なく、ここでの主な生業は植物の採集・栽培であったとみられます。

・弥生時代

上田原東遺跡における弥生時代の中心となるのは中期(約 2000 年前)で、竪穴建物が約20 棟見つかっています。建物は平面形が方形のものと円形のものがあり、方形の建物は1辺が3～4m程度であるのに対し、円形のは直径が7m程度と一回り大きく作られています。また、花卉形住居と呼ばれる多数の張り出しを持つ建物も1棟確認されました。円形の建物跡からは石を磨いて仕上げた矢じり(磨製石鏃)の未成品が多数出土したのもあり、磨製石鏃の製作工房であると考えられます。他に土器や石器が出土していますが、石器では弥生時代を象徴する収穫具である石包丁は出土していません。縄文時代以来の扁平な打製石斧(石クワ)は一定量出土しており、上田原東遺跡におけるこの時期の中心的な生業は水田稲作ではなく畑作であったと考えられます。

・古墳時代

この時代の竪穴建物は約20棟で、いずれも方形です。建物には前期(約 1600 年前)と後期後半(1400 年前)のものがあり、後期の建物には壁の1 辺にカマドを伴います。カマドには土器が置かれたままのものもあり、家を移るときに火処であるカマドでマツリを行った跡であると考えられます。

・中世

一部の穴から素焼きの皿や中国産のやきもの、常滑焼(愛知県産のやきもの)の甕などが出土しています。年代としては鎌倉～南北朝時代(13～14 世紀)が中心です。

発掘調査のまとめ

発掘調査によって、上田原東遺跡が縄文時代～古墳時代を中心とした大規模な集落遺跡であることが分かりました。縄文時代の竪穴建物は多くが晩期末のもので、この時期の建物跡は県内では極めて少なく、重要な成果です。弥生時代では、花卉形住居が特筆されます。花卉形建物は県内では大野川流域で数例見つかっています。古墳時代では、近隣の陣箱遺跡(弥生時代中期～古墳時代初頭)の形成が終わった時期から遺跡の形成が始まっており、人の移動があったとみられます。そして、集落が継続している時期に前方後円墳の立野古墳(4紀末、県指定史跡)が築造されています。立野古墳と同時期の集落はこれまで発見されておらず、古墳と集落の関係を考える上で重要な成果であるといえます。今後、出土品の調査・分析をすすめることで、より詳細な地域の歴史を明らかにしていきたいと思います。



縄文時代の竪穴建物跡



弥生時代の円形竪穴建物跡群



花卉形住居(中央の方形竪穴は古墳時代の建物跡)



古墳時代後期の竪穴建物に付属のカマド

上田原東遺跡の発掘調査区平面図(S=1/400)

